

## 科学研究費助成事業（科学研究費補助金）研究成果報告書

平成24年 5月24日現在

機関番号：17102

研究種目：若手研究（B）

研究期間：2009～2011

課題番号：21720263

研究課題名（和文） モンゴル帝国期ユーラシアの国際貿易と地域社会の相互関連に関する基礎的研究

研究課題名（英文） Basic Research on Mutual Relationship between Local Societies and International Trade in Eurasia under the Mongol Empire

研究代表者

四日市 康博（YOKKAICHI YASUHIRO）

九州大学・人文科学研究院・専門研究員

研究者番号：40404082

研究成果の概要（和文）：

海域アジアにおける漢人とムスリムのコミュニティの形成とその拡散を陶磁器、金銀、銅銭、香料、真珠などの物流ネットワークとの関係から考察を試みた。すなわち、(1)漢語史料・ペルシア語史料・アラビア語史料・モンゴル語史料をはじめとする文献史料、陶磁器・銀錠・銅銭などの考古学資料の分析、現存する史跡・遺構や地方誌等の文献から復元した都市空間・流通経路の分析を通じて、主に江蘇・浙江・福建地方と海域アジアとの関わり、さらには、(2)インドとペルシャ湾・紅海を結ぶ交易ルートにおける中国製品の貿易とその担い手となる商人集団の活動実態を明らかにした。ただし、漢人商人とムスリム商人がそれぞれ持つ広域的なコミュニティ・ネットワークの相互関連性にはなお不明瞭な点も多く、今後の研究課題となる。

研究成果の概要（英文）：

Totally, I considered the formation of Chinese and Muslim communities and their diasporas from the viewpoint of the relationship with the circulation of the goods including Chinese porcelain, Chinese silver ingot, copper coin, aromatic plant, pearl and others in Maritime Asia. That is to say, mainly, the following points were brought under reviews: (1) the relationship between Maritime Asian commercial sphere including Ryukyu, Japan and Southeast Asia and Jiangsu, Zhejiang, Fujian and Guangdong district through the analysis of historical materials including Chinese, Persian, Arabic and Mongolian and archaeological materials including porcelains, silver ingots and coins, and the urban spaces and distribution channel restored from historical sites and administrative records of local governments, (2) maritime trade of Chinese goods and the activities of its main body of merchants amongst Persian Gulf, Red Sea and India. However, the mutual relation between the communities of Chinese and Muslims spreaded through a wide area of Maritime Asia remains to be solved.

交付決定額

（金額単位：円）

	直接経費	間接経費	合計
2009年度	1,200,000	360,000	1,560,000
2010年度	1,200,000	360,000	1,560,000
2011年度	1,000,000	300,000	1,300,000
年度			
年度			
総計	3,400,000	1,020,000	4,420,000

研究分野：人文学

科研費の分科・細目：史学・東洋史

キーワード：(1)東洋史、(2)中国史、(3)モンゴル史、(4)イスラーム史、(5)イラン史、(6)東

## 西交渉史, (7)海域交流史, (8)ユーラシア史

### 1. 研究開始当初の背景

本研究は、ユーラシアのなかで人・物・文化がどのような構造の下に行き交い、それぞれの地域間にどのような共通性と差異性が形成され、それがユーラシア全体の文化圏にどのような影響を与えたのかという点を明らかにすることにある。ここにいう「ユーラシア」とは、単にユーラシア大陸の内陸部のみを指すわけではなく、インド洋海域世界との陸海の連環構造を有し、相互交流のある異文化圏を内包する緩やかな文化圏を指す。

モンゴル帝国時代の東西交流の研究としては古くから蓄積があり、古くは Paul Pelliot や桑原隲蔵、近年では Thomas Allsen などの研究があるが、交流そのものや政治史・制度史を扱い、その背景にある社会との関係に焦点をあてた研究視点は少ない。近年、ディアスポラ研究の進展に伴い、John Chaffee によるムスリムの海域ディアスポラ、Sen Tansen による漢人の海域ディアスポラの論考が発表されたが (*Journal of the Economic and Social History of the Orient* 49: 4 (2006))、その背景にある地域社会と帰属意識の問題には踏み込まれていない。

そこで本研究では、血縁・地縁・民族・宗教・職業グループなど様々な帰属意識とその母体となる社会集団が人々の移動にどのような影響を与えていたのか、また各社会集団の相互関係や政治権力との関係にも焦点を当て、いくつかの具体的なテーマ設定をおこなう。

### 2. 研究の目的

本研究の目的は国際貿易商人および彼らに附帯して移動する人々がそれぞれの地域社会とどのような関係にあったのかを明らかにし、地域社会との紐帯を保った人々の拡散がユーラシアの東西交流にどのような影響を与えたのか、その基本的構造を解明することにある。

### 3. 研究の方法

2008 度までの代表者の研究「モンゴル帝国期の国際貿易と多言語環境下の文書行政の関連性に関する基礎的研究」(若手研究(B))においては、主に領域権力(モンゴル政権)と移動する人々に焦点を当て、東西ユーラシアのモンゴル政権内に各社会集団の利権がどのように反映されていたのか、また、国家と商人がどのように相互扶助関係を形成したのかを明らかにした。また、モンゴル帝国下の多言語文書行政システムの形成、その東西交流への影響を考察した。これにより、新たに以下の点が研究課題として浮上した。

(1) 各社会集団と東西交流の関係、帰属意

識の母体となる社会と移動、拡散する人々の関係

(2) 広域社会(社会的紐帯(=帰属意識)を保持しつつ拡散した人々の総体的ネットワーク)の相互関係、およびそれが社会・地域・国家間の移動・交流に及ぼした影響

(3) 社会レベルにおける多言語環境の形成過程とそれが東西交流に与えた影響

(4) 国家レベルの多言語複合文書行政システムと社会レベルにおける多言語環境の関係

このうち、本研究では特に(1)(2)に焦点を絞って研究を進める。(以下参照)

#### (1) 「広域社会」の形成過程の考察

##### ①モンゴル期東北アジア・東南アジアにおけるムスリムの移動と拡散

1. 内陸経由および海域経由ディアスポラの過程と背景

2. モンゴル帝国内におけるムスリムの社会形成と二次的ディアスポラ

3. 宋元明の王朝交代と中国ムスリム社会、交易構造の変容

##### ②モンゴル期東北アジア・東南アジアにおける漢人の移動と拡散

1. 漢人ディアスポラの過程と背景 2. 地域社会の変容(新興豪民の出現)と海域進出

3. 宋元明の王朝交代と漢人社会、交易構造の変容

##### (附帯的考察)トルコ系・モンゴル系諸民族、ヒンドゥー系民族の移動と拡散

#### (2) 広域社会の相互関係の考察

##### ①海域アジアにおける漢人、ムスリムの広域社会の相関性

1. 元朝下中国の漢人社会とムスリム社会 2. 海域アジアにおける広域社会の相関性

3. インド洋交易の物流(陶磁器・茶・絹・金銀・銅銭)から見た広域社会の相関性

##### ②イル=ハン朝におけるイラン=イスラーム社会とトルコ、モンゴル文化

1. イランにおけるモンゴル・トルコ系諸民族の社会集団形成と各文化の流入

2. イランにおける中国系文化の流入とその背景

##### (附帯的考察)モンゴルと地中海世界の外交、交易とモンゴル治下のイタリア商人社会形成

### 4. 研究成果

研究(1)の柱のひとつである「漢人社会の拡散と移動ネットワークの形成に関する基礎研究」に関しては、浙江・江蘇を中心とす

る地方誌の解読作業を進めた。また、松江・青浦・呉江・平江（蘇州）・昆山において、水利・交通・行政・宗教史跡や地域社会の有力者に関わる史跡、石刻史料などの調査をおこなった。さらに、台湾北部の宋元期遺跡、沖縄本島や久米島の諸グスクにおける現地調査、陶磁器を中心とした出土資料調査をおこない、宋元期と明初期における浙江・福建・琉球（台湾・沖縄）の交通ルートや人とモノの移動の連続性と相違性について考察を進めた。これらの成果の一部として、主に陶磁器貿易と人の移動の関わりという観点から「匯聚：交流中所形塑的亞洲」国際學術研討會（臺灣故宮博物院）、国際シンポジウム「東アジアの陶磁の道を探る―日本・中国・韓国」（愛知県陶磁資料館）において学術報告をおこない、現在論文化を進めている。

もうひとつの研究計画の柱である「ムスリム社会の拡散と移動ネットワークの形成に関する基礎研究」に関しては、Tari kr e Vassaf などペルシア語年代記史料の読解をおこない、関連史料の考察を進めた。イランにおいては、Tabriz 周辺で石刻などモンゴル期文字資料の収集をおこない、Khuzestan 州において海域交流と行政・宗教施設の関連性に関する調査をおこなった。

さらに、テヘラン大学考古学研究所との共同研究として、イラン所蔵アルダビール文書のモンゴル期多言語複合文書の調査をおこなった。一方、内陸ルート経由の東西ユーラシア交通路における人の移動と漢人社会・非漢人社会の関わりという観点から『黒城出土文書』の漢語文書・非漢語文書の読解をおこなっており、モンゴル4ハン国の行政文書様式と東西ユーラシアの移動・交流との関係について考察を進めた。

研究(2)「広域社会の相互関係の考察」という観点からは、①海域アジアにおける漢人、ムスリムの広域社会の相関性、②イルハン朝におけるイラン=イスラーム社会とトルコ・モンゴル文化、に関して史料読解と現地調査を進めた。①に関しては元代～民国期の地方志史料や地図資料・考古資料の考察に基づき、浙江地方の杭州・紹興、福建地方の福州・莆田・連江において都市空間における政治官衙空間・宗教文化空間・経済商業空間と海域関連史跡・非漢人居留区の関係を調査し、博多（福岡）、琉球（沖縄）において海域関連史跡と漢人居留区（漢人関連史跡）の調査をおこなった。さらに、台湾の澎湖島の宋元期遺跡、沖縄本島や慶良間諸島における現地調査、陶磁器を中心とした出土資料調査をおこない、浙江・福建・琉球（台湾・沖縄）における陶磁器を中心としたモノの移動、漢人コミュニティ・非漢人コミュニティの拡散に関する連続性と相違性について考察を進めた。

これらの成果の一部として、主に中国江南沿海部の海運・水運・交易と人の移動の関わりという観点から元代杭州研究論壇（杭州：中国元史学会）、宋遼金元西夏史青年學者交流會（台北：國立政治大學）において学術報告をおこなった。

もうひとつの研究(2)の柱となる「イルハン朝におけるイラン=イスラーム社会とトルコ・モンゴル文化」に関しては、ペルシア語・アラビア語・トルコ語・モンゴル語・漢語の複合史料であるアルダビール文書の読解をおこない、テヘラン大学考古学研究所などイラン側の研究者と連携を取りつつ、関連史料の考察を進めた。この研究の成果は、日本オリエント学会第31回大会（東京：国士舘大学）、ワークショップ「モンゴル帝国期多言語文書史料群と歴史研究―イランと中国を中心として」（東京：早稲田大学）において、報告をおこなった。また、中国社会科学院歴史研究所中外関係史研究中心が刊行する『欧亚学刊』に論文が掲載される予定である。

最後に、移動する人々がそれぞれの地域社会とどのような関係にあったのかを明らかにし、地域社会との紐帯を保った人々の拡散がユーラシアの東西交流にどのような影響を与えたのか、その基本的構造の解明を試みた。そのために(1)「広域社会」の形成過程の考察 ①モンゴル期東北アジア・東南アジアにおけるムスリムの移動と拡散、②モンゴル期東北アジア・東南アジアにおける漢人の移動と拡散、(2) 広域社会の相互関係の考察 ①海域アジアにおける漢人、ムスリムの広域社会の相関性、②イルハン朝におけるイラン=イスラーム社会とトルコ、モンゴル文化、という観点からアルダビール文書・ハラホト文書およびペルシア語・漢語史料史料読解、また、中国、韓国、日本、イランで現地調査をおこない、総括として学会報告、論文作成をおこなった。

(1)①、(2)②に関しては日本オリエント学会、Krakow で開催された European Conference Iranian Studies7 で報告をおこない、『貿易陶磁研究』にインド洋海域におけるムスリムの中国陶磁貿易に関する論考、International Journal Nāneh-ye Baharestan にイランにおけるモンゴル勅書発給と漢字印使用に関する論考を発表した。

また、(1)②に関しては Bonn University で開催された International Symposium "Asian Straits"において宋代のアジア海域での漢人の活動に関する報告をおこない、復旦大学で開催された国際学術会議「伝承と変革」において中国およびアジア海域における中国銀の流通に関わる元朝の財政政策に関する報告をおこなった。

なお、(2)①は本研究の総括的な部分に関

わるテーマであるが、これに関しては北京首都大学でおこなわれた World History Association 大会で漢人・ムスリムのディアスポラの相関性に関する報告をおこない、論文として『モンゴル史研究』にモンゴル時代の移動と交流に関する論考、Asian Empires and Maritime Contacts before the Age of Commerce II に帝国とディアスポラの関係についての論考を発表した。

#### 5. 主な発表論文等

(研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線)

[雑誌論文] (計 4 件)

YOKKAICH Yasuhiro. "Chinese seals in the Mongol official documents in Iran: Re-examination of the sphragistic system in the Il-khanid and Yuan Dynasties." 『吐魯番学研究：第三屆吐魯番学暨欧亚游牧民族的起源与遷变國際學術研討會論文集』2010. 315-330 頁.

四日市 康博「モンゴル帝国時代の移動と交流」『モンゴル史研究--現状と展望』2011. 124-149 頁.

四日市 康博「近年のユーラシア史研究と貿易陶磁」『貿易陶磁研究』31. 2011. 1-13 頁.

YOKKAICH Yasuhiro. "The Eurasian Empire or Chinese Empire?: The Mongol Impact and the Chinese Centripetal System in Maritime Asia." Asian Empires and Maritime Contacts before the Age of Commerce 03. 2011. 21-34 頁.

[学会発表] (計 14 件)

YOKKAICH Yasuhiro. "Chinese ceramics in Indian Ocean trade network under the Mongol Empire." 「匯聚：交流中所形塑的亞洲」學術研討會. 2009年5月21日. 台湾(台北): 臺灣故宮博物院.

四日市 康博「宋元時代の浙江・福建および海域アジアにおける人とモノの移動」国際シンポジウム「東アジアの陶磁の道を探る--日本・中国・韓国」. 2009年7月4日. 瀬戸: 愛知県陶磁資料館.

四日市 康博「近年のユーラシア史研究と貿易陶磁」日本貿易陶磁研究会第 31 回研究集会. 2010年9月25日. 東京: 青山学院大学.

四日市 康博「イル=ハン朝下イランにおけるオルトクとその交易活動」日本オリエント学会第 31 回大会. 2010年11月7日. 東京: 国

士館大学.

四日市 康博「元朝的浙江、福建統治と市舶政策」元代杭州研究論壇. 2010年11月13日. 杭州(中国): 江之飯店.

四日市 康博「イル=ハン朝の文書行政システムにおけるモンゴル文書様式と元朝印章制度の影響--アルダビール文書を中心に--」ワークショップ「モンゴル帝国期多言語文書史料群と歴史研究--イランと中国を中心として」. 2010年12月11日. 東京: 早稲田大学.

四日市 康博「元代の浙江・福建統治と漕運」宋遼金元西夏史青年學者交流會. 2010年12月25日. 台北: 國立政治大學.

YOKKAICH Yasuhiro. "Maritime Diaspora and Trade under Mongol Hegemony." the 20th Annual World History Association Conference. 2011年7月8日. Capital Normal University (Beijing).

YOKKAICH Yasuhiro. "Multiple Aspects of the Ardabil Documents." International Workshop "Comparative Research on Iranian Islamic and Mongolian Chinese Aspects of the Ardabil Documents in the Ilkhanid/Mongol period." 2011年7月16日. 大阪大学(大阪).

四日市 康博「元代の白銀流通與南海貿易」傳承与變革—10—14 世紀中國的多邊政治與多元文化"國際學術會議. 招待発表. 2011年8月29日. 復旦大学(上海).

YOKKAICH Yasuhiro. "The Ordinary Merchants Seen in the Ardabil Documents: Mongol Amir and Privilege Merchants in the Il-khanid Dynasty." the 7th European Conference of Iranian Studies. 2011年9月10日. Jagiellonian University (Krakow).

YOKKAICH Yasuhiro. "The Pattern of Maritime Trade Viewed from the Straits of Ryukyu before and after the Fourteenth Century." International Symposium "Asian Sea Straits: Functions and History (c. 500 to 1700)". 招待発表. 2011年9月17日. Universitat Bonn (Bonn).

四日市 康博「イル=ハン朝期アルダビール文書にみる東西ユーラシア交流」日本オリエント学会第 53 回大会. 2011年11月20日. ノートルダム清心女子大学(岡山市).

四日市 康博「モンゴル帝国～宋元時代のイ

ンド洋交易と龍泉窯青磁」国際シンポジウム  
「龍泉窯青磁の謎を探る」招待発表. 2012年  
3月24日. 愛知県立陶磁資料館(瀬戸).

[図書] (計 件)

[産業財産権]

○出願状況 (計 件)

名称：  
発明者：  
権利者：  
種類：  
番号：  
出願年月日：  
国内外の別：

○取得状況 (計◇件)

名称：  
発明者：  
権利者：  
種類：  
番号：  
取得年月日：  
国内外の別：

[その他]

ホームページ等

## 6. 研究組織

### (1) 研究代表者

四日市康博 (YOKAICHI Yasuhiro)  
九州大学・人文科学研究院・専門研究員  
研究者番号：40404082

### (2) 研究分担者

( )

研究者番号：

### (3) 連携研究者

( )

研究者番号：